

受精卵の発生左右する遺伝子の働き発見

京大の研究グループ 不妊治療成功率アップへ

受精卵の発生過程を左右する遺伝子の働きを、京都大農学研究科の南直治郎准教授らの研究グループがこのほど突き止めた。この遺伝子の機能を弱める

と胎児へと成長しにくくなるといい、不妊治療の成功率を引き上げる技術に応用できるとい

う。南准教授らは、細胞内のDNAとタンパク質の複合体の構造を変化させる遺伝子Chd1に着目。受精直後のマウスの卵子でChd1の機能を低下させると、胎児や胎盤の形成に必要な別の遺伝子の働きも抑えられ、受精卵が胎児に育つ確率が大きく下がった。

南准教授は「体外受精で不妊治療をする際に受精卵の品質を見極める技術に活用できる」と話している。成果は英生物学専門誌ディベロップメントに掲載された。(高野英明)



遺伝子Chd1の抑制で細胞の塊が十分に形作られていない受精卵(写真上)。正常な受精卵(同下)は胎児に成長する細胞の塊が形成されている(南准教授提供)

「美術館で絵の前に立った人だけに音声ガイドを流したり、広告を表示する電子ディスプレイの前を通ると宣伝が聞こえたり。さまざまな利用

耳のス



超音波スピーカーの並ぶ研究室。

学校(奈良県大和郡山市)で学んだ。在学中、関西文化学術研究都市に奈良先端科学技術大学院大(生駒市)が開学。「大学と違って単位を取る必要がなく、研究に集中できる」と魅力を感じ、進学した。国際電気通信基礎技術研究所(ATR、京都府精華町)の研究員も兼務し、音響技術の

何でもやってみようという気持ちがますます大きくなった。誰かからやらされるのではなく、自分でやりたいことを探すようにしてほしい。そうすれば興味を持てるものが見つかるはずだし、それを突き詰めていくことで人生は楽しくなる。

京大の吉村さん選ぶ

情報通信技術の将来で

院生と高校生意見交換

京大デザインスクール開催

社会のさまざまな問題の解決策を描く人材を育てる大学院プログラム「京都大デザインスクール」がこのほど、京都市内の高校生を対象に最新の情報通信技術(ICT)を体系的に紹介する催しを左

京大デザインスクールは、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された5年制のカリキュラムで、情報や建築、機械、経営、心理などを専門とする学生たちが学ぶ。「情報通信技術のデザイン」の講義の一環として、

大学の京大で開いた。生徒たちは、大学院生たちと複雑化したICTの将来の展望や課題について話合った。

デザインスクールは、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された5年制のカリキュラムで、情報や建築、機械、経営、心理などを専門とする学生たちが学ぶ。「情報通信技術のデザイン」の講義の一環として、

か」などと積極的に質問指導を担当する石田亨科教授は「ICTは細すぎて、若者たちのI起きています。大学院生説明することで、新しい連携にもなる」と話し

